教育目標　桜学精神（おうがくせいしん）

知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成を目指し教育目標を「桜学精神」と定めました。桜は，人々に愛され親しまれ，その四季の移ろいの風情は，勇気と希望とうるおいをもたらしてきました。桜から学ぶとは，森羅万象の偉大さを桜という樹木を通して謙虚に学び，自らを成長させる心構えと実践力を養うことを言います。

・教育目標を実現するための三つの指針

第５学年～第９学年	桜の花よりも 華ある人	桜の花よりも 時機を知る人	桜の花よりも 愛される人
第１学年～第４学年	元　気	チャレンジ	思いやり

- 第１に、華ある人とは、自分の良さを発揮して他の人と共に幸せに生きようと心がけることで成し得ることができ、元気であることが基本となります。
- 第２に、満開の桜の花は美しく、咲く時機（チャンスとタイミング）を心得ているかのようです。また、木枯らし吹く寒さの頃に、既に花のつぼみはあります。苦難の時を越え、新たな大地を開拓するようなチャレンジの大切さを言います。
- 第３に、桜の木の存在は人々に潤いと癒しをもたらしてくれます。自分の命の役割を自覚し自らの存在を大切にしていける児童・生徒は、周囲の人々に対しても思いやりの姿勢を示せるものです。

○　特色ある学校づくりに向けて

本校は，練馬区初の小中一貫教育校として開校する。９年間を見据えた教育活動を「命の教育」を根幹に置き，社会を担う児童・生徒の自覚と自立の精神を育成する。以下に掲げる４点を教育活動の柱として設定し，特色ある学校づくりを進める。

１　小中一貫教育校としての教育活動を活かし，異年齢集団による学び合いや体験活動を通して，人権尊重の教育を推進する。

９年間の一貫した教育活動を推進し，児童・生徒がかかわる活動を充実させ，互いに尊重し合える人間関係を構築する。児童・生徒の社会性の伸長を図り，教育目標「桜学精神」のもと，命の教育を重点とした教育活動を推進し，人権意識を高めていく。

２　実社会での体験を通し，望ましい勤労観・職業観を育成するとともに，自己の生き方を考えさせる。

大泉学園桜小・中学校で，自己の生き方を考えさせる学習として，福祉に関する学習，キャリア教育，伝統文化に関する学習を展開してきた。今後，さらに児童・生徒が自己理解を深め，福祉施設体験，探究活動，職業調べ・職業講話，職場体験，農業体験等を工夫・充実させ，よりよい進路選択ができるようにする。

３　人とのかかわりを重視した体験活動を通し，日本の伝統・文化の理解を深め尊重する態度を育てる。

外部講師を招いたり工房等に出向いたりするなど，様々な専門家とかかわり合いながら，９年間を通し，日本の伝統・文化理解に関する体験学習を実施する。その主な取組として，昔の遊びや道具，和太鼓と筝，能・狂言，華道・茶道，下町の伝統工芸，民族舞踊等の体験活動の取組を行っている。今後は，これらの体験学習のねらいを一層明確にし，各教科との関連や指導体制の改善を図りながら，日本の伝統や文化を大切にし，受け継いでいこうとする態度を育てていく。

４　9年間を通した教育活動において，指導法の工夫・改善をし，児童・生徒の能力の伸長を図る。

５・６年に対する一部教科担任制，個別学習室を活用した補充学習の充実，卒業式を終えた６年生に「プレ７年生期間」を設け春季休業中の学習指導，など指導法の改善を図る。また英語によるコミュニケーション活動を重視し，３・４年生の英語活動，５・６年生の外国語活動，７・８・９年生の英語学習など9年間を見通し系統的・発展的に行う。